

## 2021年度 学長所信 4月1日 「分野を超えた協調へ」

東京医科歯科大学 学長 田中雄二郎

昨年の今日は学長就任の一日目でしたが、コロナ禍が始まりピンチをチャンスにと皆様にご挨拶してスタートしました。

振り返れば昨年4月2日に最初のコロナ患者の入院を受け入れて以来、都内でも最も多くの重症患者を受け入れてきた本学医学部附属病院の取り組みや、変異株を中心とした本学の関連研究はメディアでも大きく取り上げられ、社会からも高い評価を頂きました。

その社会から様々な応援を頂き、寄附金一つ取り上げても2.6億円(前年度の6倍以上)にも及んでいます。経済的な損失が懸念されましたが、幸い、行政からの補助金によりその心配も解消しています。

これをなし得たのは、社会からの応援も勿論ですが、教職員の皆さんが、合言葉「力を合せて患者と仲間たちをコロナから守る」の下に、各部署が自律的に考え、「責めるより応援しよう」と協力してくださったからだと思います。本当に感謝しています。

加えて、昨年10月15日には、萩生田光一文部科学大臣から指定国立大学法人の指定を受けました。

九つの指定国立大学法人の内、医療系に特化した大学は本学のみで、指定国立大学法人としての目標に掲げた「世代を超えて地球・人類の「トータル・ヘルスケア」を実現する」に向けて、我が国をリードする使命が課せられたと認識しています。

以上、昨年度を振り返りましたが、今年度について基本的な考え方をお話します。

コロナ感染症は依然として収束の兆しはありませんが、本学はそれぞれの部署が創意を發揮しその力を合わせる という「自律と協調」へ 一步を踏み出していると思います。今年度はこの歩みをさらに加速したいと思います。

特に、今年は 学内の協調、コラボレーションについて力点を置きたいと思います。それも、それぞれの専門や分野を超えた今までにないコラボレーションを重視し、支援していきたいと思います。

なぜ学外連携よりも学内連携に力点を置くのか？決して学外との協調を排除するものではありませんが、学内分野間協調を進めることにより本学の付加価値が高まり、学外との連携もさらに円滑に進むと考えているからです。

本学には、医学部に医学科、保健衛生学科（看護、検査）、歯学部には歯学科、口腔保健学科（衛生、工学）があり、さらに教養部、難治疾患研究所、生体材料工学研究所、メディカルデータサイエンスセンターがあります。

しかし、高い専門性を有する反面、部局間ないし分野間協調という点では必ずしも十分ではなかったと思います。

コロナを通じて生まれた協調機運の中、本年 10 月には 医学部附属病院と歯学部附属病院が一体となり東京医科歯科大学病院に生まれ変わります。これも、分野間協調の一環となると期待しています。

メーテルリンクの名作「青い鳥」にあるように、探し求めている幸福の「青い鳥」は、結局家の鳥かごの中に居た ということは、皆さんの人生でも思い当たることがあるのではないのでしょうか？例えば、仕事のコラボレーション相手を散々探していたら、すぐ近くに良い相手がいたという経験がある人は多いのではないのでしょうか？

幹部職員の皆さんには、それぞれの担当範囲、即ち教育、研究、診療、国際、情報、社会連携の領域に於いても分野間協調を支援して頂きたいのです。それも精神論だけでなく、補助金など具体的な方策を考えて頂きたいのです。

加えて、率先して幹部職員の皆さん自身が連携して、大学を構成する教職員ひとりひとりが身近にある「青い鳥」を見いだせるように支援して頂きたく、この場を借りてお願いする次第です。

「力を合せて患者と仲間たちをコロナから守る」という合言葉ですが、もともとは学長就任に当たって掲げた「力を合せて未来を拓く」に由来しています。

就任 2 年目の今年は、分野を超えた協調即ち幅広いコラボレーションを合言葉に皆さんと「未来を拓く」べく、一緒に進んで行きたいと考えています。是非ご協力をお願い致します。